

東京のまちづくり

特集1 首都東京を支える道路の維持管理

特集2 おうちで楽しむ! 動物園・庭園・植物園

特別特集① 近年の台風における河川施設のストック効果



排水溝・側溝のしゅんせつ



東京ズーネットBB「うごく!どうぶつ図鑑」

レッサーパンダの母娘

首都東京を支える道路の維持管理

工事中

道路における応急措置

巡回パトロールや通報などにより、道路上のひび割れ、防護柵の破損などの不具合を発見した場合は、応急措置を実施して道路の安全・安心を確保しています。また、街路灯のランプ交換などの保守、点検も実施しています。



維持補修

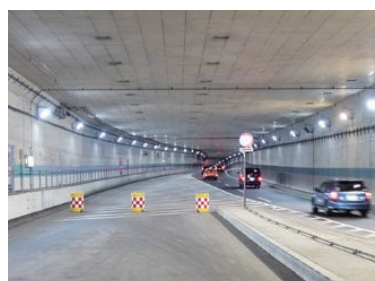


街路灯のランプの取替

道路施設の運用管理

大規模トンネルなどの道路施設では、安全で円滑な交通を確保するため、24時間365日で監視業務にあたり、昼夜を問わずに緊急対応を行っています。

また、それぞれの道路施設が常にその機能を最大限に発揮できるよう、定期的に点検を行い、適切な維持管理に努めています。



築地虎ノ門トンネル



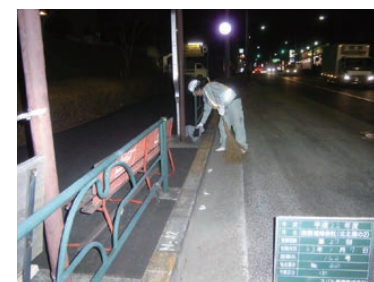
井荻・練馬トンネル

道路清掃

交通事故の原因となる異物を除去し、良好な交通空間を維持するとともに、落ち葉などによる側溝のつまりを防ぐため、道路上のゴミや落ち葉などを取り除く道路清掃を定期的に行っています。



車道清掃



清掃中



路面、橋梁やトンネルなどの定期点検

道路の管理においては、構造物等の状態を確認することは非常に重要なため、定期的に点検・調査し、台帳に調査結果を蓄積して補修計画に活用しています。

道路の路面については、特殊な機器を搭載した車両で、ひび割れやわだち掘れを計測し、優先的に補修する箇所を決めています。

橋やトンネルの点検は、5年に1回定期的に行っています。点検は、点検車などにより橋やトンネルにできるだけ接近して調査します。点検では目視や打音等により、コンクリートのひび割れや鋼材のさびなどの劣化や損傷を調査します。点検の結果をもとに、劣化や損傷が進行する前に橋やトンネルの補修や補強を行っています。



路面性状調査



橋梁点検(秋川橋)

巡回パトロール

道路巡回点検車により、道路や橋梁の不具合や道路上の落下物などを発見しています。点検は、3日に1回程度の頻度で管内道路を一周するよう実施しています。また、台風や集中豪雨、地震等の災害時は、道路施設の安全を確認するため緊急点検を実施しています。



橋梁の維持管理

橋の主な部材であるアスファルト、コンクリート、鋼部材は、大型車がくり返し走行することや雨などの影響により日々厳しい環境のもとにあります。

舗装やコンクリートの補修、塗装の塗替えなど傷んだ箇所の修理を適切に行うことで橋を良好な状態に保ち、安全で円滑な交通を確保しています。



伸縮装置の取替(和田下橋)



塗装の塗替え(勝開橋)

道路通報システム(MCR)

「My City Report for citizens(MCR市民投稿アプリ)」は、都民と自治体が協働して道路管理に取り組むためのスマートフォンアプリで、利用者が道路の損傷や不具合をレポートすることで、自治体やアプリ利用者として情報を共有します。

この事業は、H30年度の大学研究者による事業提案制度により「インフラ運営の透明化に向けたICT・AIを活用した市民協働システム」が採択され、この取り組みの中で、試行を行うものです。



試行期間 2020年2月5日～2022年3月(予定)
試行対象エリア 葛飾区(都道・区道)、品川区(都道)[2020年4月現在]今後、試行対象エリアは拡大していく予定です。
【主催】東京大学生産技術研究所開本研究室、東京都建設局
アプリダウンロードは→<https://www.mycityreport.jp/>

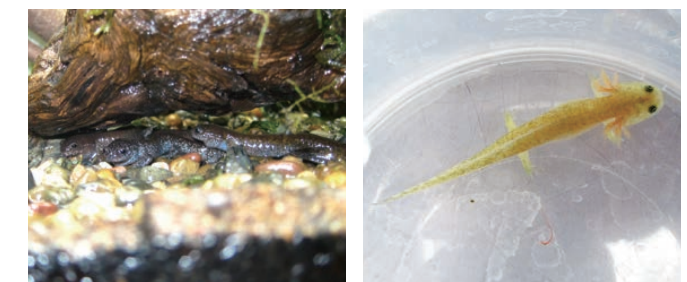
井の頭自然文化園生まれのトウキョウサンショウウオ

井の頭自然文化園 水生物館飼育展示係 高濱由美子

東京都には、3種のサンショウウオの仲間の生息が知られています。そのうちトウキョウサンショウウオは、東京都西多摩郡多摩西村(現在のおさき野市)で採集された標本をもとに、1931年に新種として報告されました。福島県から群馬県を除く関東地方に生息していますが、その分布は標高300m程度までの丘陵地の狭い範囲に集中しており、近年では生息環境の悪化などによる個体数の減少が心配されています。大きさは10cm程度で、多くは褐色から黒っぽい色をしています。

当園では、都内に生息するトウキョウサンショウウオの繁殖に取り組んでいます。現在、2020年3月11日にふ化したトウキョウサンショウウオの幼生を3個体育成中です。サンショウウオ類の幼生は、頭の後ろにふさふさと飛び出たエラ(外鰓)があります。この頃には水中で水生昆虫などを食べてくれますが、成長とともに外鰓が体内に吸収されると、主に水辺周辺の森林など陸上で生活するようになります。育成中の幼生は、生まれた時は1.5cm程度でしたが、5月1日現在、約5cmに成長しました。本号が発行される頃には、おとなの姿に変わっているかも知れません。今後の成長が楽しみです。

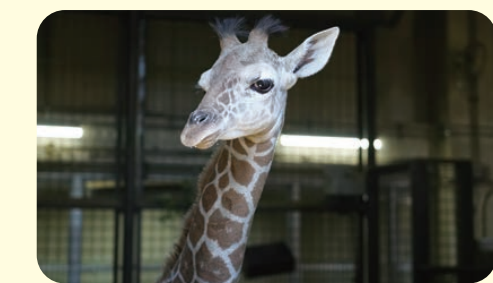
当園では、現在2019年に生まれた個体を展示しています。大きさはまだ成体より小さく7cm前後です。これからも展示を続けながら、多くの方にトウキョウサンショウウオについて知ってもらえるよう、情報を発信していきたいと思っています。



トウキョウサンショウウオ

トウキョウサンショウウオ幼生

動物園の“かお” 上野動物園 キリン



2020年2月に上野動物園で37年ぶりに生まれたキリンの子ども「ヒカリ」(メス)です。